

マスクボランティア@あいぽーと みんなのキモチ たくさん届きました!!



ボランティア

ボランティア活動を始めたい、ボランティアを募集したい等の様々な相談を受け付けています。また個人、団体でのボランティア登録を受け付けており、登録された方には定期的にボランティアに関する情報をお届けしております。ボランティア活動に興味のある方はぜひご来館ください。

NPO法人

NPO法人の設立・運営に関する相談や、各種提出書類の相談窓口を開設しています。特に、法人の設立及び定款変更の認証申請書類の作成に関しては、留意していただく事項が多いため、申請書類の作成に関する質問、提出書類の確認をするなどの事前相談を実施しております。また法人の活動状況把握のための訪問や、要望に応じての出前相談会も行っております。

くまもと・わくわく基金 / その他助成金

「くまもと・わくわく基金」や「その他助成金」に関する相談を受け付けています。「くまもと・わくわく基金」から助成を受けるには、あらかじめ基金団体登録をしていただく必要があります。申請書や報告書など書類の書き方の説明や、団体の運営相談などを受け付けています。また、「その他助成金」に関しては、ホームページでの情報掲載や、窓口での説明・紹介等を行っております。

Let's go あいぽーと!

あいぽーとでのイベント情報をFM791のラジオで毎週月曜日朝8時40分より配信しています。「Let's go あいぽーと」を聴いてあいぽーと情報をゲットして遊びに来てください。

放送日 / 毎週月曜日 8:40~

※生放送のため、開始時間が前後する場合がございます

あいりぽーと

毎月、あいぽーとスタッフが、熊本市内で活動されている団体取材し、FM791のラジオ番組「校区のチカラ」の中で取材報告をしています。

放送日 / 毎月第2金曜日 14:00~

動画deあいぽーと

NPO向け講座&あいぽーとの活用法をYouTubeで公開しています。ボランティア情報を探るとき、書類の作成で悩んだときなど、ぜひ活用してください。今後もどんどんアップしていく予定なのでチャンネル登録もよろしくお願いします!

チャンネル登録はコチラ



詳細については、お気軽に下記までお問い合わせください。

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

TEL:096-366-0168 FAX:096-366-8830
Mail:aiport_kumamoto_city@joy.ocn.ne.jp



ホームページは
コチラから

もくじ
contents

特集 ● 多難な時代のひなんの指南..... 02

- クローズアップ人 01
- あいず ボランティアレポート外伝 06
- くまもと・わくわく基金レポート
令和元年度 助成事業の成果レポート 08
- わくわく基金「その後の話」..... 10
- ご協力のお礼と寄附者のご紹介 12
- 令和2年度 助成事業の紹介 13
- アクティブNPO 14
- 数字で見る“あいぽーと” 16
- あいず川柳道場 17

● 表紙について

みなさんの手で届けられたたくさんのマスク、マスク、マスク。コロナ禍で活動が制限される中、あいぽーとが実施した「マスク寄贈ボランティア」を象徴する写真ですね。寄贈していただいた方々の写真はP06～07に掲載しています。どの手が誰のものか、当ててみるのも楽しいかもしれませんよ！



クローズアップ人



生き方を
ガラリと
変えてみたい!

竹下 義文 さん(70)

略歴
平成25年に実施された熊本市の第1期市民後見養成講座を受講。後にそのメンバーが集まり、勉強会を通して「NPO法人 対話する市民後見 くまもと『カタルバ』」を設立。

自衛隊に40年、民間企業に8年籍を置いた竹下さんが、次の舞台に選んだのは「市民後見人」の世界でした。新たなステージで彼が見出した「大切なもの」にクローズアップしました。

——全く違う生き方をしてみたかったのですが？

まずは「市民後見人」について説明が必要ですね。まず「後見」とは、知的障がい者や認知症などで判断能力が低下してきた人の権利を守るため、財産管理や契約などの補助代理を行う制度です。当事者の親族や、弁護士、司法書士など専門職の方が後見人となるケースと異なり、私たちのような一般市民が後見人となる場合は「市民後見人」と呼ばれます。ここで私の話に戻ります。以前は損害保険の会社、さらにその前は自衛隊と、まったく関係ない世界で働いていました。50年近く働く中で、「自分の生き方をガラリと変えてみたい」という想いをずっと抱えていたのですが、そんな時に転機が訪れました。

——なぜ市民後見人を目指そうと思ったのですか？

以前は、後見人というのは弁護士などの専門家がなるものだと思っていましたが、新しい制度では私のような一般市民でも後見人として誰かの人生を支えることができるという「これだ！」と思いついたのです。団塊の世代

がどんどん高齢化していく中で、市民後見人が必要な時代が来るだろうと予感し、後見制度の勉強を始めました。熊本市が行う養成講座や講習を受け、のちに熊本家庭裁判所からの選任を経て、後見人として活動をスタートしました。

——後見人として活動する中で改めて見えてきたことは？

主な後見対象は認知症の高齢者の方です。認知症というと、もの忘れ、同じ話を繰り返したりするといったイメージがあるかもしれませんが、私がお話しているのが沢山あります。華やかだった昔の生活のお話、人の生死に関するお話など、それぞれが歩んでこられた人生が垣間見え、とても勉強になるのです。人からは、「認知症の方が相手だと大変でしょう」と言われますが、とんでもない。私にとっては生きがい、人の為というより自分の為にやっている活動なんです。

——今後目指していくことは？

「人のために、どうお役に立てるか？」をテーマに、ずっと活動を続けていきたいですね。熊本市の社会福祉協議会とも協力して、市民後見人を増やす活動も行いたいと思います。私たちの後に続いてくれる方々のためにも、しっかり努力して道を示していきたいと思っています。

ひなの指南 2

頭の中で「避難訓練」を試してみる!

子どもの頃に学校で行った避難訓練は覚えていますか? 時代は移り変わり、避難をするシーンにおいても新しい生活様式が求められるようになりました。また、避難の際に必要な準備物も、年齢や性別、職業などによって大きく変わります。このページでは、前述のような各種の「難」に遭遇したときに「どこに避難すればいいのか?」「どの段階で避難を始めればよいか?」「どのような対処・準備が必要か?」を具体的に、ご自身の立場で考えてみましょう。

各項目の空きスペースはメモ欄として使用できます。
避難する際の場所や手段、準備物などを書き出してみましょう

災害からの避難

「避難」と聞いてまず最初に思い浮かぶのは災害からの避難ではないでしょうか? 住まいや家族構成を踏まえて、ご自身に起こり得る「避難すべき状況」はどんなものがあるのでしょうか?

● いつ、どんなときに避難をはじめ?

例)地震なら?	地震なら?	台風・水害なら?	その他
※家族の所在も想定してみましょう 小学生の娘の無事を確認し、夫が職場から帰ってきてから小学校に避難する 避難所が開いていない場合は車で福岡の実家に行く			

● 自宅以外の場所に避難する際は、その利点やリスク、問題点などを総合的に考える必要があります。

避難所に行くなら?	車中泊するなら?	ほかにも
先日の台風10号では、熊本市全域に避難指示が出され、開設された近隣の避難所で一夜を過ごした方も多くいたのではないのでしょうか。避難所を利用する際にも3密を避ける必要があるため、従来とは変わって様々な準備が必要になります。 ・どこで避難所?どの道を通る? ・必要な準備物は?	地震の時はひらけた場所に、水害の時は高台にと、車中泊も有効な避難手段です。トイレの有無、食料や飲料の入手方法の確認や、エコノミークラス症候群の予防も必要です。 ・どこに停める? ・必要な準備物は?	仲の良い友達の家にお世話になったり、親族の家にお世話になったりする選択もあります。その場合には、食料や布団を持参することや、家族構成を考慮し、何日間お世話になるのかを想定し、伝えておくことも必要です。 ・考えられる避難先は?

● 様々なトラブルからの避難

想定しておくべき「難」は自然災害だけではなく、以下のような場合も、いざそのときにどう行動すれば良いかシミュレーションしてみましょう。

感染症を防ぐには?	交通事故にあったら?	急な病気・ケガのときは?	ほかにも
・準備しておくものは? ・普段から心がける行動は?	・どこに連絡する? ・未然に防ぐ手段は?	・どこに連絡する? ・薬や医療器具は?	・考えられる被害は? ・対処法や未然に防ぐ手段は?

多難な時代のひなの指南

多くの「難」が押し寄せるこの時代!

蔓延する新型コロナウイルス感染症。県南、県北を襲い、甚大な被害をもたらした豪雨災害。2016年の熊本地震も、まだまだ記憶に新しいでしょう。毎年数々の「難」が訪れる、文字通り多難な時代です。今回の特集では、そんな多くの「難」を少しでも「避け」て、安全に暮らすための方法、熊本市民の皆さんにぜひ知っておいてほしい情報を考察しました。

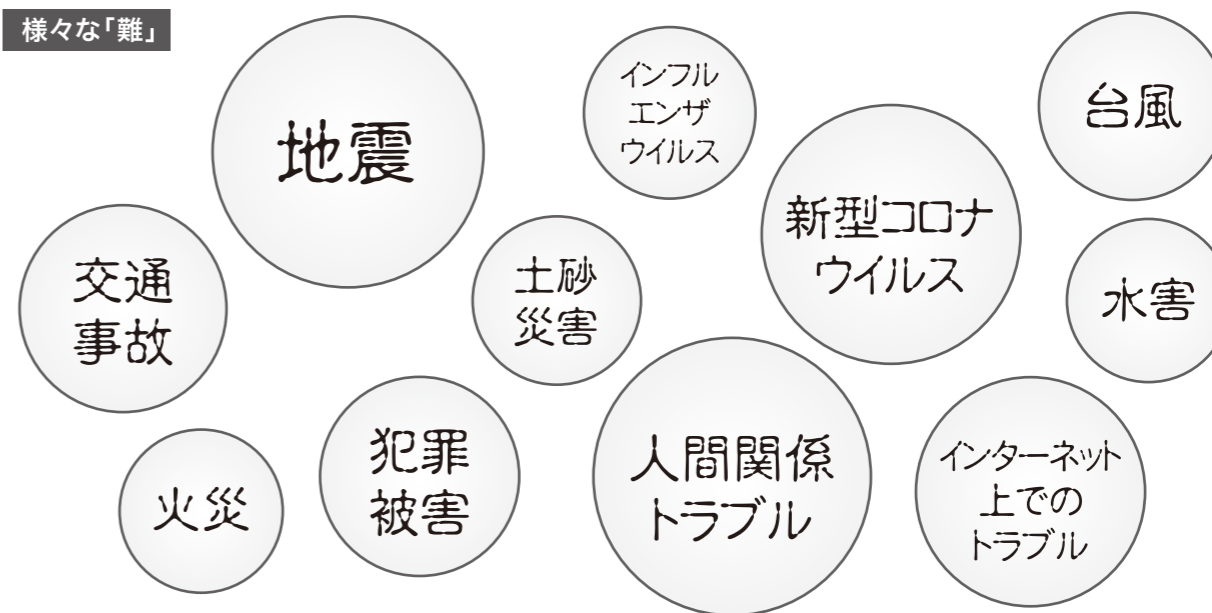
ひなの指南 1

自分にとっての「難」を知る!

そもそも避難って?

避難とは「難」を「避ける」と書きます。最初に考えてみて欲しいのは、自分にとっての「難」とは何なのか? という問いです。一口に「災害」と言っても、それぞれの暮らしや環境によってその危険度は違います。例えば大雨によって水害の可能性があるときでも、川沿いや低地に住む人は浸水のリスクが高く、山沿いに住む人には土砂災害の危険性が考えられます。

様々な「難」



新型コロナウイルスをはじめとした感染症や、地震・台風・水害などの自然災害はもちろん、交通事故、犯罪による被害、人間関係上のトラブルなども、避けるべき「難」です。インターネット上でのトラブルなども、現代特有の「難」と言えるでしょう。自分や家族、あなたの大切な人にとって避けるべき難や災害は何なのか、改めて想像してみましょう。

ひなの指南 4 伝え合い、共有することが最大の「避難」!

最後にお願いしたいのは、皆様のご家族や友人、知人、ご近所さんなど、あなたにとって大切な人と「情報を共有して伝え合う」ことです。新しい生活様式の中での「避難」においては、情報を正しく入手すること、情報を共有して有効に使うことがとても重要です。

災害時・非常時に無事を確認したい人は?	その人との連絡手段は?	もしものときの待ち合わせ場所は?
<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
<p>Check! 学校や職場、病院、施設など、日中その人がどこにいるのか、また移動手段は何なのかなども把握しておきましょう。</p>	<p>Check! 大規模災害では通信障害や長期の停電が発生し、携帯電話がつかないという事態も! 電話でメッセージを預かるNTTのサービス「災害用伝言ダイヤル」(171)などの活用も視野に入れてみましょう。</p>	<p>Check! 災害時に連絡がとれないままはぐれてしまった人と待ち合わせをするときには注意が必要です。「●●小学校」など、避難所の場所だけしか決めていないと、広い避難所中を探し回ってすれ違いになることも。「●●小学校の体育館の入口」のように、より具体的な場所を決めておきましょう。</p>

「まさか!」の時にこそ、大切な人の無事をいち早く確認したいものです。正しく、素早い助けあいを実現するためにも、今までにチェックした情報を家族や仲間と見せあい、共有しておきましょう!

まとめ

- 1 避けるべき「難」は人それぞれ!
直面したら困る「難」をリアルにイメージしてみる!
- 2 平常時こそ必要な避難訓練!
避難経路や準備物まで細かくシミュレーションしておく!
- 3 最新の避難術を活用すべし!
苦手な地図、インターネットにも積極的にチャレンジ!
- 4 人との繋がりこそ最大の避難術!
大切な人と、お互いの「避難戦略」を教え合おう!

ひなの指南 3 「受け身の避難」はもう通用しない!

災害に関する情報をいち早くキャッチし、正しく避難をするため、必ず活用してほしい「ハザードマップ」と「インターネット上のサービス」についてご紹介します。

現代の常識! ハザードマップを活用すべし

ハザードマップとは、災害が発生した時に危険と思われる箇所や、避難場所などを地図にまとめたものです。地震、水害など災害の種類ごと作成されていて、気をつけてほしいポイントなども掲載されています。



ハザードマップを確認しよう!

お住まいの地域のまちづくりセンター等でも確認することができます!

https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=2121

熊本市 ハザードマップ 検索

Check! 自宅にもハザードマップ!?

災害時の「街の危険箇所」はハザードマップに記されていますが、「自宅の中の危険箇所」も把握できていますか?

- ・地震の時に危ない場所や部屋は?
- ・台風の時に気をつけるべき窓は?
- ・どのくらいの降水量で浸水する?



などなど、住んでいるあなた自身しか分からない情報があります。普段から災害に備えたり、避難を始めるタイミングの目安にもなるので、「もし災害が起こったら」の目線で家じゅうを見渡してみましょう。

高度で複雑な情報がまとめられているため、知りたい情報を読み取るのに時間がかかる場合もあるかもしれませんが、全ての人に見ておいてほしい大切な情報です。熊本市内の各家庭に配布されている冊子「わが家の防災マニュアル」にも掲載されているうえ、上記のサイトからもダウンロードして保存したり、プリンターで紙に印刷することもできるので、ぜひチェックしておいてくださいね!

インターネットが苦手…なんて言っていられない!?

災害情報を入手する手段は、新聞・テレビなどのマスメディア、町内放送など多々ありますが、最も早いのがインターネットを利用した情報配信サービスです。年配の方の中には「機械が苦手だから」「良くわからないから」と、ネット・メールの利用を避けている方も多くいますが、「自分や大切な人の命を守る」という大きな目的を前に、「苦手だから…」なんて言っていられません! 広報誌やホームページに掲載されている利用方法をよく読む、身近な詳しい人に尋ねるなど、「自ら避難する」ための情報収集を始めましょう!

下記の2つは、熊本市が一般に向けて災害の情報を配信してくれるサービスです。最大のメリットは、「警戒・避難が必要なときにすぐ、直接知らせてくれること」です。この機会に登録してみましょう!

熊本市災害情報メール	熊本市公式LINEアカウント
<p>災害時における行動支援と防火・防災等を目的として、各種災害情報や気象情報などをメールでお知らせするサービスです。パソコンや携帯電話などで受信できます。メールを受信するには、【仮登録】と、その後の【本登録】手続きが必要です。</p> <p>空メールを送信する</p> <p style="text-align: center;"><input type="text" value="t-kumamoto@sg-m.jp"/></p> <p>携帯電話・スマートフォンで、右の二次元バーコードもご利用できます。二次元バーコードの読み取りができない場合は、上記のメールアドレスへ空メールを送信してください。</p> 	<p>コミュニケーションアプリのLINE(ライン)でも最新の災害情報を受け取ることができます。先日の台風10号上陸に伴う避難でも、多くの人がLINEからの情報を受け取り、避難の指針として活用されました! 災害情報以外にも、熊本市における新型コロナウイルス感染症の情報を受け取ったり、道路、河川、公園の損壊などを市に報告できる「市民レポート」の機能も備えています。スマートフォン・タブレットPCへのLINEアプリインストールが必要です。</p> <p style="text-align: center;"><input type="text" value="熊本市公式LINEアカウント 友達登録"/></p> <p>※スマートフォン・タブレットPC等のカメラ機能で読み取ってください</p> 

あいずボランティアレポート

eyes volunteer report

マスクでNPO団体を応援！マスク製作・提供ボランティア

コロナ禍にあえぐ熊本市で、この夏あいぽーとが実施したボランティア企画は…
NPO団体を応援するマスク製作・提供ボランティア！

熊本市内で特別養護老人介護施設や障がい者や児童の支援事業を行っているNPO団体へマスクを届けるため、市民や企業に向けてマスクの提供・製作をお願いしました。

- ルールはこれだけ！
- ・手作りでも市販のマスクでもどちらでもOK
 - ・製作にかかる材料費は自己負担



たくさんの手作りマスクをあいぽーとまで持参してくれました！



応援いただいた方(希望者)には「ボランティア活動証明書」を発行します



こんなにたくさんのマスクが集まりました！



小学生から高齢者まで、たくさんの方に参加していただきました！

傾聴ボランティアくまもと

ステップアップ助成

助成事業名 震災仮設住宅の被災者一人一人の話に耳を傾け、元気を取り戻すお手伝いをする 助成金額 151,660円

震災仮設住宅に残っている被災者を毎月訪問し、傾聴ボランティアを実施しました。一人一人の話に注意深く耳を傾け、その心に寄り添いしっかり受け止めて聴くことで、被災者の心を癒し、また心の安定と生きる力、生きる勇気、自己肯定感の回復(被災者の自立)に繋げるお手伝いをしました。また「傾聴の意味と意義」「傾聴ボランティア活動の重要性」を広く周知するため、傾聴の第一人者を講師に招き公開講座を開催しました。



NPO法人 ガット

ステップアップ助成

助成事業名 熊本市立小・中学校の学校図書館活性化事業 助成金額 202,000円

熊本市内の小・中学校の司書、学校図書館担当者を中心に、本事業の計画を提案し希望校を募集し実施校を決定、視察を行い、課題を把握して改善内容と方法を考えました。実施校は、帯山西小学校、日吉小学校、飽田南小学校、奥古閑小学校、豊田小学校の5校でした。2月には全国学校図書館協議会事務局を招き、熊本市立小・中学校の図書館関係者を対象に学校図書館活性化に向けた講習会を開催しました。事業のまとめとして広報誌やホームページで学習内容の報告を行いました。



うえき自然塾

ステップアップ助成

助成事業名 里山での親子自然体験活動 助成金額 130,000円

豊かな自然の中、親子で思いきり体を動かし、友だちと遊びながらたくましさや優しさを培うことを目指し、毎月1回(1月をのぞく)の季節に応じた野外体験活動を実施しました。スタッフの指導の下、「作る・食べる・遊ぶ」を軸に、竹を使った工作、川遊び、調理体験、飯盒炊飯、山遊び等の体験活動を行いました。



NPO法人 熊本県難聴者中途失聴者協会

ステップアップ助成

助成事業名 難聴者・中途失聴者のコミュニケーション力、社会参加力向上のための講座 助成金額 224,000円

難聴、中途失聴当事者を対象に、自身の障がい特性の理解や障がいの受容を促し、社会参加を支援することを目的としたセミナーを開催しました。



NPO法人 でんでん虫の会

ステップアップ助成

助成事業名 イベント出店活動・料理教室、実習体験交流会による居場所づくり 助成金額 169,163円

いままでに繋がってきた他団体との関係などにより、イベント参加の機会を得ることが増えました。イベントに参加することで会員の意識が向上し、孤立を防ぐ効果があることを見出しました。また食は人とのつながりと生きる喜びを味わうとても価値ある機会となるため、イベントには当会自ら出店して参加し、調理を実際に行いながら食を楽しむ機会を作る事業として実施しました。



NPO法人 福ねこ舎

ステップアップ助成

助成事業名 福ねこ舎 地域文化活動事業 助成金額 200,000円

障がい者、高齢者をはじめ地域住民の楽しみとして、毎月開催される定例コンサートや展示会、落語会などの内容をさらに充実させ、広報により参加者の増加を図りました。その成果として記録を残し、また地域や参加者のニーズを把握することで、将来へ向けて高齢化の進む地域で住民が精神的に豊かな生活を送れるように、運営する人材を育てました。



ことう文庫の将来を考える会

ステップアップ助成

助成事業名 本を通して地域がつながり、子供をはぐくむ文庫へ 助成金額 139,019円

図書事業として、41回の開館と366冊の本の貸出やよみかせ・体験を実施しました。文庫維持管理と広報事業として、古くなった本や設備の入替えと回覧文書の作成・印刷を行いました。コミュニティづくり事業としてBook cafe開催や湖東夏祭りに参加しました。活動のデータベース化事業として、子どもに読んでほしい本や開館時の工作・体験プログラムをホームページに掲載して発信しました。



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金 令和元年度 助成事業の成果レポート

令和元年度熊本市市民公益活動支援基金「くまもと・わくわく基金」は以下の12団体12事業に助成を行い、よりよい熊本市を目指し、熊本独自の地域課題につながる事業が実施されました。

- ・スタートアップ助成事業……………2事業 助成決定総額 180,000円
- ・ステップアップ助成事業……………10事業 助成決定総額 1,758,842円

NPO法人 ブライトパル熊本

スタートアップ助成

助成事業名 “伝統行事を楽しむ”親子いけ花 助成金額 100,000円

特別支援学校の児童・生徒を対象に、華道を通じた伝統文化等の継承・発展と、子どもたちの豊かな人間性を育む事業を実施しました。7月に七夕向け、12月にクリスマス向けの生け花を、型にとらわれず自由な発想で親子各々生けてもらい、四季を感じ、伝統行事を親子でより楽しむ機会を創出しました。お互いの作品を美点凝視で認め合い、教室終了後には作品を展示し、市民に向けて障がいに対する理解を深めることも目的としました。



NPO法人 くまもと新創生プロジェクト

スタートアップ助成

助成事業名 「おもてなし」講座の開催 助成金額 80,000円

フランス、イギリス、オセアニア、東ヨーロッパ、台湾、中国、熊本のお茶、飲料をテーマに全8回の「おもてなし講座」を行いました。フランスや中国など、それぞれの国の出身者・専門家を招き、その国の風習や文化、日本との違いや熊本とのつながりなどを聞いて学びました。相手を知り自分たちの文化も知ることでお互いの交流を深める機会となりました。



NPO法人 くまもとオカリナの会

ステップアップ助成

助成事業名 熊本地震復興支援「第4回くまもとオカリナッセ」 助成金額 150,000円

中国のオカリナアンサンブルグループをゲストに迎え、国内外のオカリナ奏者が参加する「第4回くまもとオカリナッセ」を開催しました。オカリナの普及を図るとともに、熊本の名を広く国内外にアピールし、もって熊本地震からの復興を支援することを目的としました。



NPO法人 しらさぎ

ステップアップ助成

助成事業名 熊本城石垣・清掃ボランティア活動 助成金額 203,000円

令和元年6月1日、熊本城内(熊本県立第一高等学校隣接の石垣と熊本城公園・桜橋)で総勢210名の参加者が石垣の除草・清掃活動を2時間半にわたり実施いたしました。開会式の中で歴史講話を実施し、活動終了後は子ども達に感謝状を授与しました。



NPO法人 ディスカバリーくまもと

ステップアップ助成

助成事業名 熊本市の隠れた観光地を英語でガイドする為の講座 助成金額 190,000円

熊本城、水前寺成趣園には多くの外国人観光客が訪れていますが、この地域以外にも観光に適した素晴らしい宝物を持った地域(校区)があると考え、そのような地域を外国からのゲストや観光客に英語でガイド出来る小学生とその保護者を育成する講座を実施しました。本年度は碩台・黒髪校区等の小学5、6年生を対象に、故郷を誇りを持って世界に発信するための「生きた英会話」の習得を、そして将来彼らがグローバルに活躍できるように育成する事を目的としました。



くまもと・わくわく基金 その後の話

くまもと・わくわく基金の助成を受けた団体が、その後どのような発展を見せたのかを追跡するこのコーナー。今回取材する団体は、平成24年度、26年度に助成を受けたくまもと発達支援親の会「めだか」です。30年近く活動を続けている同団体ですが、助成金を利用したのはくまもと・わくわく基金が初めてだったとのこと。さてさて、どんな効果を生み出したのでしょうか？

平成24年度・
26年度助成団体
くまもと発達支援親の会
「めだか」

1992年設立。
発達障がいに対する理解を広げ、
子ども達への療育の場や
居場所づくりを目的に、
保護者や若手の療育指導者を
中心に活動をスタート。
<https://kumamoto-medaka.jimdofree.com/>

どんな事業？

平成24年度助成事業
発達障がいの子ども達の感覚統合「めだか療育」
発達障がいのある子どもたちの
困難を軽減するために、
感覚統合療法を用いた療育を行う。

平成26年度助成事業
発達障がいの子ども達の感覚統合
「クリスマス会」
感覚統合の理論に基づいた
大掛かりなセットを用い、
ゲームやクイズにチャレンジ。

代表：前田 慶子さん

30年近く続く
この活動によって築いた
「人と人の繋がり」、
「共感できる仲間たちとの絆」が
すごく心強いです！



Q 設立のきっかけは？

きっかけは1990年に開かれた子ども障がいに関する講演会でした。まだ「発達障がい」や「LD（学習障がい）」などの言葉が一般的でなかった時代ですね。当時はこのような子どもたちの療育の場はなく、参加した保護者たちの間で「熊本にも療育の場をつくりたいね」という声が上がりました。1992年に「めだかの会」として結成されたそうです。それぞれの家庭で会費を出し合い、当時まだ若手だった先生方にボランティアとして協力いただいて、子どもたちの療育の場を作る活動を始めたと聞いています。それから今日までの28年、発達障がいの理解を広げ、子どもたちへの療育の場や居場所を探し、理解者を増やすように声を上げ、働きかけてきました。

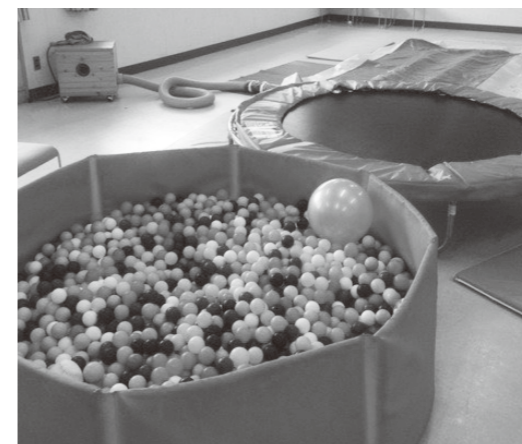
Q 「くまもと・わくわく基金」との 出会いは？

当時から活動場所としてあいぽーとを利用していました。その時にスタッフの方から「こういう助成金があって、審査に通らないとダメだけどチャレンジしてみませんか？」と紹介してもらったのがきっかけです。

Q 今後の活動予定は？ 新型コロナウイルスの影響は？

新型コロナウイルス感染症の影響でみんなで集まることができない中、子どもたちの療育活動や親御さんたちの勉強会を、どのように時代に合わせていくのか頭を悩ませているところです。やはりインターネット、SNSの活用が中心になりますが、会員それぞれで試行錯誤しながら有効な手段を探しています。また、会員でない方からも電話や相談を頂くことがありますので、孤立される方がいないように声を掛けをしたり、いろんなところにリーフレットを置かせてもらったりと、皆さんが最初の一步踏み出すための後押しになる活動もやっていきたいです。良くも悪くも、いろいろなものが大きく変化していく時期だと思います。私たちの活動もそれに合わせて変化していきながら、子どもたちの育ちや、

困っている親子を応援していきたいですね。



助成金の使い道は、「感覚統合療法」という療育です。平成24年度の助成では、感覚統合に必要なトランポリンやその他の道具・器具を購入できた事で療育がとても充実しました。また、ボランティアの学生さんの人数を増やす事ができたので、学生のみならず、子ども達も実践を通じた勉強の場をフィードバックできたのではないかと思います。26年度の助成では、講師の先生を招き、大型のセットを使って感覚統合のゲームや遊びを実施しました。思いっきり体を動かして、達成感と自己肯定感を得ることができたので、子どもたちはもちろん、私たち保護者にとっても素敵な時間でした。

Q 助成を受けて、団体にも変化が
やはり審査に向けて書類を作ったり、プレゼンテーションの資料作りをしたりと、担当者は大変でしたが、得たものはたくさんありました。助成金を活用することで活動の幅が大きく広がったのはもちろん、団体の認知度を上げる効果もありました。プレスzenを通して、多くの方に私たちの活動を知ってもらう機会ができましたし、広報誌や情報誌に名前が載ること、ネット上の検索で目につきやすくなった。広報誌で取り上げられたのをきっかけに問い合わせしてくれた方もいました。

Q わくわく基金をきっかけに 様々な助成金にチャレンジ！

「くまもと・わくわく基金」は私たちにとって初めての助成金でした。今まで私たちの力だけではできなかったことが、こんなにも幅広くできるのかと効果を実感しましたし、あいぽーとの皆さんにサポートしてもらいながら作成した申請書やプレスzen資料の作り方もとても勉強になりました。なによりも、「審査を経て選んで頂けた」ということが、また次にチャレンジしてみようという気持ちの後押ししてくれますね。この経験を活かし、「WCRP」や「赤い羽根共同募金」、大和証券福祉財団の助成金など、様々な助成にも応募し、活用することができました。

用語説明②

■ 感覚統合療法

作業療法の一つ。脳に入って来る情報を整理しまとめる（=感覚統合）能力の偏りをなくし、身体を動かす、人とコミュニケーションをとるなど、周囲の環境と上手に関わる手段を身につける療法。

用語説明①

■ 療育

障がいのある子どもの発達を促し、自立して生活できるように援助する取り組み。

今年で設立28年を迎えた、くまもと発達支援親の会「めだか」。代表の前田さんも入会されて14年とこのことです。リーフレットのかわいいイラストは娘さんの作品です。持っている本来の力をしっかり生かすことができる発達障がいはとても魅力的な特性ということがわかります。ぜひ、ホームページやブログを訪ねて下さい。

熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金

「くまもと・わくわく基金」へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

熊本市民の皆さま、法人・団体等の皆さまからのご寄附は、令和2年7月10日現在、27,702,287円となっております。ご協力に厚く御礼申し上げます。今号では、令和2年1月11日から令和2年7月10日の間にご寄附をいただきました皆さまへ感謝の意を込め、以下にご芳名を掲載させていただきます。皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【一般寄附】

- 楠本 守男 様 30,000円
- 株式会社 熊本市リサイクル事業センター 様 6,783円

《ご要望によりお名前のみ公開希望の方》

- NPO法人 スポレク・エイト 様
- 株式会社 石翔 様
- 株式会社 熊本シティエフエム 様
- 株式会社 お菓子の香梅 様
- 金子 雄司 様
- 熊本新明産業 株式会社 様
- 株式会社 パースト24 様
- 株式会社 オークス熊本 様
- 有限会社 オー・エス収集センター 様

※その他、掲載を希望されなかった方 2名

寄附をお考えの方

「くまもと・わくわく基金」への寄附は、地域活動推進課窓口へ直接寄附金をお持ちいただく方法と、事前に必要事項を記入した「寄附申出書」を地域活動推進課へ送っていただき、その後返送された「納付書」をもって金融機関にて寄附金をご入金いただく方法があります。他にも熊本市役所本庁舎1階に募金箱を設置しております。寄附額に制限はありませんが、2,000円以上ですと、地方公共団体に対する寄附として「ふるさと納税」扱いとなり、税制上の優遇措置を受けることができます。また、「くまもと・わくわく基金」への寄附は、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」でもお申込みできます。寄附のお申し込みやお問い合わせは、お気軽にあいぼーとまでご連絡ください。

あいぼーと TEL: 096-366-0168
ホームページ http://www.kumamoto-aiport.com/kumamoto_wakuwaku/

くまもと・わくわく基金を活用して社会貢献しませんか？

NPOやボランティア団体等の市民公益活動を寄附というカタチで応援(社会貢献)することができます!その応援(社会貢献)の方法のひとつとして『寄附金付自動販売機』があります!

寄附金付自動販売機とは？

各事業所や店舗で新規に設置、または既存の自動販売機を『寄附金付自動販売機』として設置し、売上の一部を寄附することができる制度です。市と協定を結んだ飲料水メーカー(提供事業者)が、代行して寄附を納入します

寄附金付自動販売機のメリット

- ① 何年にもわたって設置することができるので、無理なく息の長い社会貢献ができる
- ② 自由に寄附額を設定でき、少額から始めることができる

※市民公益活動への応援のカタチ(寄附方法)は他にもあります!また、寄付をした場合の特典もありますので詳しくは熊本市地域活動推進課へお問合せ、もしくはホームページをご覧ください。

熊本市地域活動推進課 TEL: 096-328-2036
ホームページ http://www.kumamoto-aiport.com/kumamoto_wakuwaku/

ホームページQR



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金

令和2年度 くまもと・わくわく基金 助成決定団体一覧

熊本市市民公益活動支援基金「くまもと・わくわく基金」令和2年度助成事業には、21事業のご応募をいただき、13事業への助成が決定しました。
・スタートアップ助成事業 6事業
・ステップアップ助成事業 7事業

スタートアップ助成事業

熊本法人会ファンド

健軍東校区 第7町内自治会

助成事業名
健軍東7町内コミュニティづくり

ゲーム等のレクリエーション、親睦を図る茶話会など、住民同士が顔を合わせて親睦を図り、コミュニティづくりのできる場を年間を通して企画。「防災、防犯、ふるさと作り」、「共助」について考える機会となる講座、地域の行事への参加も行う。

スタートアップ助成事業

熊本法人会ファンド

たんぽぽのわたげ

助成事業名
「夏休みの宿題やっちゃおう会」

夏休みの孤立化対策の一つとして「夏休みの宿題やっちゃおう会」を企画。各自やりたい宿題を持ち寄り、学生ボランティアに支援を求めながら進行。昨年の実施時にも感じられた「楽しく学習する子どもたちの姿」を重視し、今後の継続的な実施も視野に入れる。

スタートアップ助成事業

熊本法人会ファンド/TELマッチングギフト

NPO法人 KP5000

助成事業名
ホープ・ルーム(心の回復を支える学びの場)

障がい当事者(ピアカウンセラー)と支援者が協同し、自己回復能力を高める内容や、様々な精神保健サービスの紹介などメンタルヘルスに関する研修やイベントを開催。また、メンタルヘルスに関する市民講座を開催し、精神疾患をいち早く予防することにも努める。

スタートアップ助成事業

熊本法人会ファンド/TELマッチングギフト

特定非営利活動法人 顔晴れる

助成事業名
老人ホーム慰問活動

熊本市内の老健施設を中心に演歌と心の絆で慰問活動を行う。高齢者の方々へ、歌を歌うことで心と体が元気になるような、元気を届けられるような活動を実施する。

スタートアップ助成事業

熊本法人会ファンド

precious place 「かけがえのない場所」

助成事業名
地域の子どもの健全育成「かけがえのない場所」づくり推進事業

誰でも気軽に参加でき、子どもたちとそれを取り巻く大人と一緒に楽しめる。地域に根差したイベントを実施。パートナーシップや思いやり、気軽に何でも言い合える人間関係を築くとともに、子どもの自己肯定感やチャレンジ精神、リーダーシップも育む。

スタートアップ助成事業

熊本法人会ファンド

熊本キャリアカフェ ・MIRAI

助成事業名
熊本キャリアカフェ・MIRAI

核家族、共働きが当たり前となり、人生100年時代と言われる中、「幸せに生きるためにどうありたいのか」を考えることが非常に重要である。ここ熊本で、キャリアのこと、未来のことを気軽に話す場所や機会を提供し、一人一人の幸せな未来へ繋がる後押しを行う。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド

NPO法人 しらさぎ

助成事業名
熊本城石垣・清掃ボランティア活動

地上より届く箇所石垣除草や城内清掃者、そこから掃い取られた草木や葛の掻き集めなど混成チームでの収集作業を計画。第一高校隣接の石垣と桜橋公園の清掃ボランティア活動を一般市民の皆様へ周知。子ども達を交えての熊本城にまつわる歴史講話も計画。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド

NPO法人 ガット

助成事業名
熊本市立小・中学校の学校図書館活性化事業

熊本市内の小・中学校の司書(司書補助員)、学校図書館担当者を中心に希望校を募り、相談内容に応じた図書館活性化計画を立案する。運営のための準備作業のサポートや、改善の方法の提案、先進校の司書を講師として招いての講習会等も開催する。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド

エコ村伝承館

助成事業名
体験型環境学習活動の熊本市内への更なる展開

14年に渡り県内で活動が続ける中、本年度は熊本市内でのイベント開催をより広く展開。多くの方々に「美しい地球を守る」為に何が出来るかを竹などの材料を使って、竹トンボや水鉄砲などを作る「伝承遊びのものづくり」を楽しみながら、環境学習活動を計画。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド

熊本転入ママの会 くまてん

助成事業名
転入ママウェルカム会

熊本へ転入してきたママがスムーズに熊本に馴染み、ワンオペ育児にならずに楽しく熊本生活を楽しめるよう、先に転入してきたママや地元ママ、地元企業や地域の方達と協力して転入ママの歓迎会を行う。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド

NPO法人 くまもと 新創生プロジェクト

助成事業名
世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業

熊本の元気を県外国外に発信していくという理念のもと、熊本市の大きな財産である熊本の水への理解と認知に取り組む。一過性のイベントではなく、テキストを作成し、勉強会や地域の深掘りを以て発信者を増やし、水の理解を深めるものにする。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド/TELマッチングギフト

傾聴ボランティア くまもと

助成事業名
熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問しお話を傾聴する

震災仮設住宅(東町・益城テクノ団地・益城馬水)で継続してきた4年間の傾聴活動(お茶会カフェ)を発展させる。転入した(災害)公営住宅や地域公民館などを訪問し、改めて新しい環境での傾聴を始める。一人ひとりの様々な悩み不安に寄り添うものとする。

ステップアップ助成事業

熊本法人会ファンド

NPO法人 身近な犯罪 被害者を支援する会

助成事業名
犯罪被害者等への市民の理解を深め、相談窓口及び支援内容についての周知対策及び犯罪被害者支援員の人材養成事業

被害者等に学ぶことで、支援内容やそのあり方等について市民の理解を深める。周囲の友人知人と、支援の輪を広めることに繋げるべく、相互理解と共有、支援員の人材養成による支援の充実を図る。また関係機関との連携強化にも努める。

※熊本法人会ファンド「くまもと・わくわく基金」公益社団法人熊本法人会ファンド助成事業 ※TELマッチングギフト「くまもと・わくわく基金」東京エレクトロン・マッチングギフト助成事業



アクティブNPO

今回紹介するアクティブなNPOは、熊本県民が生涯にわたって健康で幸せな生活を送れるよう支援する「特定非営利活動法人健康生活応援くまもとプロジェクト」です。熊本地震の翌年に設立された同団体のコンセプトと想いについて、理事長の大谷さんにインタビューしました。



活動のコンセプト「全人的健康
づくり」について詳しく！

「全人的健康づくり」とは、「医（い）」「福（ふく）」「食（しょく）」「住（くら）し」が多面的に連携し、心身を含めた全ての健康づくりを総合的にサポートするという私たちの活動コンセプトです。健康で幸せな「健康生活」を享受するためには、どの項目も欠くことはできません。人生100年時代は、特にこの4つをバランスよく組み合わせた健康づくりに心がけることが肝要なのです。



活動では、各ジャンルのスペシャリストを招き「生涯現役社会」における健康寿命を伸ばすための講座などを開催しています。「医」は、医学博士や歯科医師が予防の大切さ、口腔ケアの重要性を伝える講話、「福」は認知症予防とケア、介護予防実践指導、ヨーガ、傾聴、論語など多岐にわたる専門講師による指導を行います。「食」は野菜ソムリエが健康な食生活の指導を、「住」は社会問題化している振り込め詐欺の防止対策など、安全・安心な地域社会づくりに向けて実例を挙げた講話を実施しています。また、安全・安心な暮らしやすい環

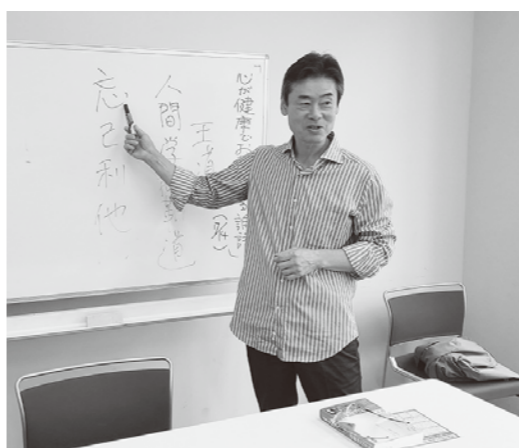
主役はあなた！

人生を楽しく、快適に！

設立のきっかけを教えてください

熊本県の平均寿命は男性81歳（全国7位）、女性87歳で（全国6位）と高水準ですが、健康上問題ない状態で制限なく日常生活を過ごせる期間を指す「健康寿命」は、男性72歳（全国32位）、女性74歳（全国38位）と男女とも平均寿命に比べ極端に低水準にとどまっています。

行政を定年退職後、老人福祉センターの施設長として高齢者の健康づくりに携わっていた私は、「健康生活を最後まで快適に過ごすためには、医療や食、運動等の多様な課題に対応する事業が必要だ」と強く意識するようになりました。そんな折、2016年に熊本地震が発生しました。震災によって多くの建物が解体さ



れ、まちの空洞化現象とともに地域コミュニティが崩壊、孤独死や孤立死が相次ぐなど、健康を阻害する要因が生じるようになりました。熊本地震の一年後の2017年に団体を設立し、「全人的健康づくり」をコンセプトに県民のみなさんの健康生活を支えるための活動をスタートしました。

今後の活動について

境づくりに対応するための「地域支援合い精神」の醸成を目指すとともに、住まいの専門家と協力した「まちの生活環境づくり」にも取り組んでいます。

今は、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、私たちの活動においてもwithコロナの「新しい活動様式」が求められています。影響が長期化する中で、集いの場などのつながり支援に取り組んでいた団体の多くが、活動を休止せざるを得ない状況となつています。その結果、これまで地域の集いの場を利用していただけたが、居宅で長い時間を過ごすことを余儀なくされ、孤立化や心身の健康への影響が懸念されます。

このような状況を鑑みて、感染症

対策を十分に行ったうえで活動を再開することを決意しました。活動のキャッチコピーは、「人・まち・未来」。健康で元気な人々が暮らし、活力溢れるまちが創出され、それが未来に繋がる…。そんな社会の姿を願って、「健康生活」に関する講座を中心に、さまざまな事業を再開していきます。ぜひ注目してください。

主な活動予定

- 8~9月 健康長寿いきいき講座「いつまでも元気で明るく！」（熊日カルチャーセンター）
- 10月 2020 人生100年時代に向けて健康寿命の延伸を支えるシンポジウム（くまもと県民交流館パレア）
- 10~12月 健康寿命の延伸を支える健康生活応援講座（清水公民館）
- 11月 高齢者就労セミナー・就労面談会（会場未定）
- 翌1~3月 健康寿命の延伸を支える健康生活応援講座「人が元気！まちが元気！東部健康塾」（東部公民館）

詳細については団体のホームページを確認！ <https://www.hlskp.org/>

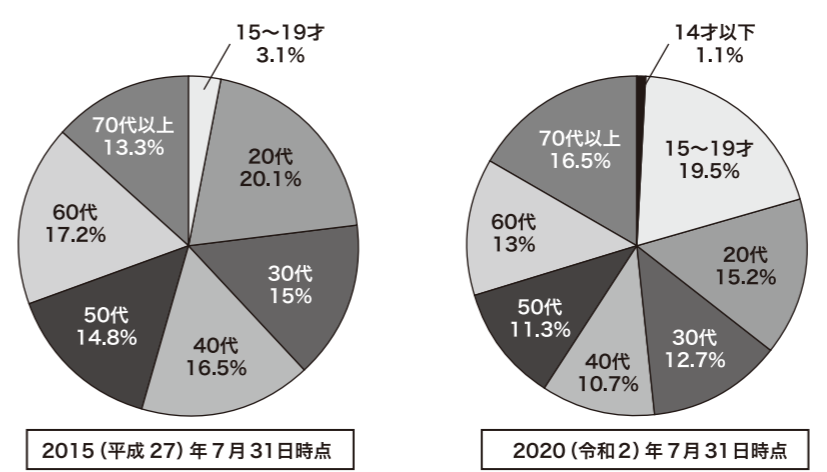
取材後記

熊本は全国的にも平均寿命が高いことはよく知るところではないかと思えます。水や食べ物が多いのだから、元気な高齢者が多いのだからと勝手に想像していましたが、実際は他県と比べて元気な高齢者が少ないということにとても驚きました。今回の取材で

数字で見る“あいぽーと”

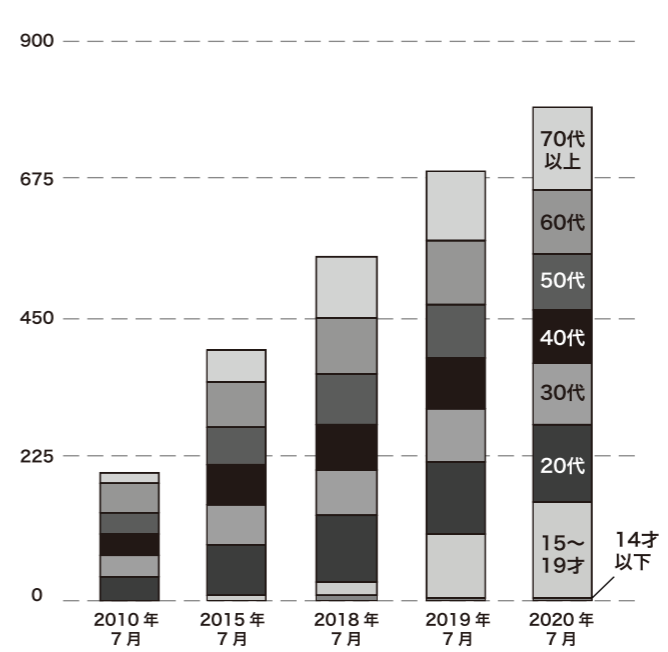
今回は、あいぽーとでボランティア希望者を登録、受け入れ先との中継を行う「よかよかボランティア」の登録者数とその変遷に注目してみました。

①よかよかボランティア登録者 年代別構成

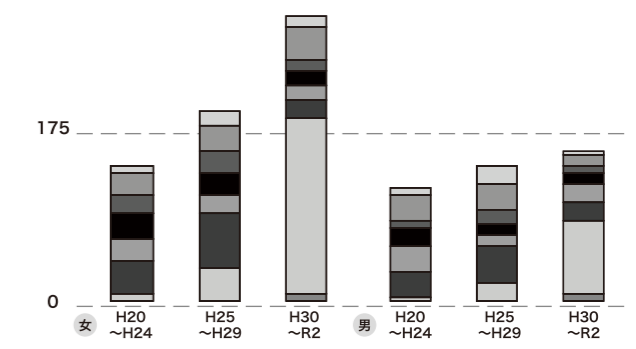


①のグラフは、2015年と2020年のよかよかボランティア登録者を、年代別構成比でグラフ化したものです。明らかに言えることは、若い層のボランティア登録者の比率が大きくなっており、以前は全体の20%程度だった20代までの若年層が、現在では登録者の約1/3を占めています。

②よかよかボランティア登録者数推移



③よかよかボランティア新規登録者数推移(男女別)



特筆すべきは、15歳から19歳までの高校生を中心とした登録者です。ここ2~3年に急激に増加し、現在では20%を占めています。③のグラフを参照すると、H30以降の新規登録者の半数以上が高校生、女性だけで見ると約2/3が高校生です。

以前から、あいぽーとではボランティアに興味を持つ中高生からの相談を受けていましたが、当時は中高生を受入れてくださるところが少ないのが実情でした。しかし、受け入れ先の開拓、初心者・若年者向けのセミナーや相談会などを強化してきたことで、学校や保護者、受け入れ先からの信頼を得て、登録者の増加につながったと考えられます。

あいぽーとが主催するボランティア活動に対しては、活動の証しと感謝の意味を込めて、希望者には「ボランティア活動証明書」を発行しています。みなさんも是非、ボランティア・社会貢献活動のきっかけを見つけに、あいぽーとを訪れてみてください！

では、他の世代が減っているかというそうではありません。②のグラフを見るとわかるように、特定年代の登録者数の減少は見られません。加齢や体調の不良を理由に登録を取り止める方もいる一方、年齢を重ねても登録を継続する方々、高齢でも体が不自由になっても、なんとか人の役に立ちたいと新たにボランティア登録する方も少なくありません。ちなみに、現在最も古い登録者は登録時に48歳、現在は70歳です。

※長期にわたって登録されている方は年代を移行して算出 ※2020.7.31現在の登録者で算出。この期間における登録抹消者は除外

あいず川柳道場

今回のお題 自粛生活

毎回力作揃いのあいず川柳道場。最近は投稿作品の数も非常に多く、毎回選考も盛り上がっています！
今回のお題は「自粛生活」。未だ続く自粛生活で感じた悲喜こもごもを作品に込めて頂きました！

- 自粛にて 増えた困った ビール缶 (北区 ガチャピンの息子)
- 自粛生活 真面目に守り 熱中症 (中央区 本田教)
- ごはんです 二人の席は はす向かい (北区 タカナシヤスコ)
- 外出と 体重増加が 反比例 (中央区 カワノ)
- タブレット 孫に習って ポケ防止 (東区 普和代)
- 自粛して 家族団らん 増えてくる (中央区 篠原昭)
- コロナ禍で 夫婦漫才 多くなり (西区 本田哲生)
- 子や孫の はじける笑顔 ライン帰省 (西区 邦子)

- 三密で 俺の居場所は 屋根裏に (南区 アリチー)
- 自重して 反省しっぱい この重さ (北区 ダイエット中・年男)
- 長すぎる もう終わっても 良い頃な (コロナ) (北区 FM791 ヘビリスナー)
- 自粛生活 なんばすつとか わからんと (出水南 今村無名)
- 出掛けたい どこでもいいが 閉まってる (東区 さいちゃん)
- 自粛よね タげの品数 蜜ならず (中央区 フィッシャーマン)
- 「もしもし」と 友に会いたし 長電話 (中央区 吉田祐子)
- コロナ禍の 自粛生活 何をする (北区 ひとりぼっち)

次号のお題は1月にあいぽーと窓口にて発表致します。詳しくはあいぽーとまで。